

北陸新幹線 臨時列車3割減

JR東日本は28日、台風19号による長野新幹線車両センター(長野市赤沼)の浸水被害で、列車本数を減らした暫定ダイヤでの運行が続く北陸新幹線(長野経由)について、来年1月6日～2月29日に臨時列車計286本を走らせると発表した。この時季の臨時列車はスキー客などの利用も多い週末を中心に運行しているが、本数は今年の時季に比べ、約3割少なくなる。

臨時列車は、東京や上野と金沢間を結ぶ速達型の「かがやき」、停車型の「はくたか」が計195本で、今年の時季よりも108本減。長野と東京・上野間を結ぶ「あさま」は91本で今年より21本少ない。

来年1月・2月

一方、定期列車は11月30日以降、かがやきとはくたかが被災前の本数に戻る。あさまも上り3本、下り4本を増やして1日15往復とし、被災前の17往復に近づける。12月27日以降はあさまをさらに1往復増使用する。

北陸新幹線は、台風19号による千曲川の堤防決壊などで同センターが浸水。全編成の3分の1に当たる10編成(計120両)が水に漬かって使えなくなり廃車が決まった。

JR東日本広報部によると、同センターに今も浸水車両が残っており、運行車両が入れないことで、減便につながっているという。同社は本年度末までにあさまのダイヤも完全復旧を目指すとしている。

佐久・滑津川 堤防拡幅へ

県、千曲川支流他も改良検討



台風19号で堤防が決壊した佐久市の千曲川支流・滑津川について、県が決壊した箇所前後区間を含め、堤防の幅を広げる改良工事をする方向で国と協議していることが28日、分かった。いずれも千曲川支流で氾濫した同市の谷川

や田子川、南佐久郡佐久穂町の抜井川と余地川についても改良工事を実施する方向で協議。堤防が決壊した同市の志賀川は、堤防の材質を強化することを検討している。

滑津川は約300メートルわたって堤防が決壊。一帯は水浸しとなり、付近の住宅や下水道管理センターが被災し、車で避難中だった市民1人が亡くなった。決壊している



県佐久建設事務所管内の対応箇所

一定程度広げる方向で検討している。県佐久建設事務所によると、決壊した箇所の堤防は記録がなく整備時期は不明。材質は石積みとコンクリートブロック積みだったが、改良でいずれもコンクリートブロック積みとする方向だ。

谷川や田子川、抜井川、余地川は、氾濫・増水によって流域の護岸と護岸上の道路が随所で崩壊。谷川沿いの市民1人が近くに土のうを取りに

知事「最善最速で復興」

災害対応補正予算案提出

県会開会

県会11月定例会は28日開会し、県は台風19号災害への対応を中心とする総額622億5700万円の一般会計補正予算案など計29議案を提出した。補正額は過去10年間で最大。提出した2特別会計の補正予算案の関連分を加えると災害対応の計上額は計712億1400万円となった。阿部守一知事は提案説明で「県組織一丸となって、被災された皆さまの思いに寄り添い、最善最速での復旧復興に全力を尽くす」と述べた。

被災者に対して納税証明書交付をはじめとする手数料を減免するための関係条例修正案なども提出した。

知事は台風災害の発生直後について、自衛隊や海上保安庁などの応援を得て「15億円超、義援金は7億円超00人を超える方々を浸水した地域から救出できた」と説明。高速道路を含め203力所に上った道路の通行止めは現在25力所に減り、県が

一方、これまでに全国から県に寄せられたふるさと納税「ふるさと信州寄付金」は1億円超、義援金は7億円超となったと報告。被災住宅の片付けや泥かきなどの災害ボランティアは延べ6万人を超えたとし、知事は「引き続き多くの協力を得られ

県政課題山積 災害対応と両にらみ

台風19号災害後、初めての県会となる11月定例会が28日開会した。県は過去10年で最大の総額622億5700万円を盛り込んだ一般会計補正予算案を提出。一般質問を含め台風の災害対策が議論の中心となる見通しだ。ただ、豚コレラ(CSF)対策や県が検討中の公文書管理条例など県会で議論すべき県政課題は山積する。各党派代表らは両にらみで対応する姿勢だ。

11月県会は災害関連議案を

含む、各常任委員会への付託審議を経て本会議で採決する通常の議事と審議する。県は応急仮設住宅の提供など応急的経費を既に専決処分し、産業復興などの中長期的な視点に立った経費を中心に補正予算案を組んだためだ。県会では12月13日までの会期中、被災地の現状を捉えつつ、将来を見据えた議論が欠かせない。

自民党県議団の風間辰一団長は「通常の県政課題に加え、今回の被災で膨大な案件

台風で土砂災害の17カ所に砂防ダム

県、緊急事業で新設へ

県建設部が本年度、上田市費は39億円。国が事業費の3分の2を補助する災害関連緊急事業に採択された。17カ所に砂防ダム(堰堤)を新設する方針であることが28日、分かった。総事業費は、新たに7カ所を追加。28日開会の県会11月定例会に提出した一般会計補正予算案に盛り込んだ。

砂防ダムを設ける17カ所



上流の山が崩れ、土石流が流れ込んだ荒沢川。上田市真田町長、10月18日

上田市平井	梅ノ木沢
上田市大日向	和熊川
上田市虚空蔵	見切沢
上田市飯沼	大沢
上田市渋沢	渋沢川
上田市新屋	栗山沢
上田市茂沢	茂沢
上田市向井沢	向井沢
佐久穂町大日向	小久保
佐久穂町古谷	漆入沢
佐久穂町平林	曾原川
佐久穂町古谷	高山
長野市若穂保科	笹平沢
筑北村玉根	玉根沢
佐久市岩下	岩下沢
長和町小茂谷	山吹沢
小谷村中土中谷東	ヒノミコ沢

緊急的な砂防工事箇所(県、28日時点)

災害関連予算初日に可決

長野市会 復旧費212億円など

長野市議会は28日開会した定例会で、台風19号への早期対応が必要として、市側提出の災害復旧費212億8300万円を盛り込んだ一般会計補正予算案など災害関連議案を即日可決した。12月16日まで19日間の会期中、災害対応に当たる加藤久雄市長は「被災者への負担軽減のため、被災者に寄り添いながら復旧復興に努める」と強調。市内4カ所で整備中の建設型応急仮設住宅について「12月1日から(被災者が)入居を開始する予定だ」と説明した。応急仮設住宅関連などの初期対応として市が10月30日付で専決処分した47億6800万円の一般会計補正予算も承認された。

議事事務局によると、当初は12月4、6日に代表質問と一般質問の実施を想定していたが、6日午前9時からの一